

民国連携による総合的なナラ枯れ被害対策の取組と今後の課題について

東北森林管理局 秋田森林管理署 森林技術指導官 ○藤田 幸人
卒田森林事務所 森林官 藤原 智子
岩手南部森林管理署 湯田森林事務所 地域統括森林官 斎藤 勇幸
(元 秋田森林管理署)

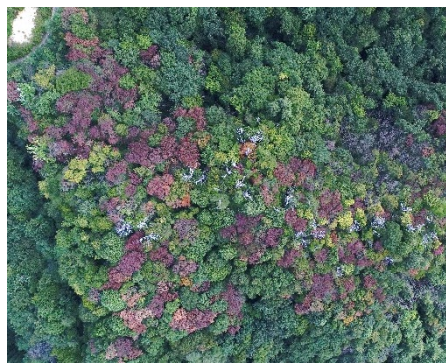
1 課題を取り上げた背景

当署管内のナラ枯れ被害は、平成27年に初めての発生を確認後、散発的な発生に止まっていたが、令和元年度より、民有林、国有林を含めた集団的な被害となり、令和元年度は前年度比の20倍を超える約2,000本、今年はその9倍相当の約18,000本（令和2年9月末現在）となっています。

こうした状況を受けて、令和元年10月に「仙北地域ナラ枯れ被害対策協議会（事務局：仙北地域振興局）」（構成機関：県2、市町3、森組1、地域団体1、国1）を設置し、民有林と国有林の被害状況の共有、「守るべきナラ林」の設定、各種被害対策の実施等、面的・効果的な防除対策に向けた取組を行ってきました。

2 取組の経過

協議会では、目撃情報の共有を図りつつ、ヘリコプターによる被害地の空中撮影写真（県）や、ドローン撮影データのオルソ化画像（国有林）等を参考に、①被害状況等の共有、②民有林、国有林被害地の図示化（1/50,000）、



（写真1：大仙市諏訪山沢国有林付近の被害状況
（令和2年9月1日：ドローン撮影）

③更新伐の実施状況と地元住民の反応など、様々な角度から検討・情報共有を行い、春・秋駆除事業の組立てや被害防止対策に反映してきました。

また、信州大学加藤正人教授やJAXAの協力により、特定の区域を対象とした衛星画像解析結果を元に、被害状況把握と今後の被害予測についても効率化・高度化してきました。

3 実行結果

協議会では、今後における被害拡大予測や、更新伐実施予定地の想定、伐倒処理や伐倒・燻蒸処理箇所の判断など、防除作業の実施に向けた重要な意見交換を行ってきました。また、令和2年度には、協議会メンバーによる現地検討会と併せて、国有林現場にて、立木の薬剤注入作業を参加者で行い、具体的な防除作業を体験するとともに、民国連携による総合的な防除の必要性について議論することができました。



（写真2：協議会メンバーによる現地検討会
（令和2年10月6日：仙北市外ノ山国有林）

4 考察

被害対策を着実に進めていくためには、局所的な駆除対策のみならず、樹幹注入や更新伐等の予防対策を組み合わせた総合的な防除を地域全体で取り組んでいく必要があります。

そのために、民有林と国有林が連携し、ナラ枯れ被害の現状と今後の被害予想を踏まえた地域選定と拡大防止の取組を進めていきたいと考えます。

また、管内には、住宅地に近接したナラ林、抱返り溪谷周辺等の観光地、田沢湖コナラ遺伝資源希少個体群保護林等「守るべきナラ林」が多く存在することから、今後も関係者の連携を緊密にした被害対策に努めて参ります。